

大阪市バス 45路線廃止検討

経日 単年度黒字化へ行動計画

大阪市交通局は、慢性的な赤字が続く市営バス事業の単年度黒字化に向け、採算が著しく悪化している45路線の廃止などを盛り込んだ行動計画をまとめた。2009年度で約73億円を見込む経常赤字を、3億円の経常黒字とするのが目標。市議会の議論を経る必要があり、実施時期は明示していないが、市は11年度にも計画に着手したい考えだ。

同市の「市営バスのあるり方に関する検討会」が08年12月に出した中長期的な収支均衡策を求める中間提言を受けて作成。

①人件費抑制や営業所統廃合によるコスト削減②抜本的な路線再編などの事業見直し③幹線、支線、地域・コミュニティ路線など路線の役割の明確化――を柱に据えた。

路線沿線に住む高齢者数など公共性を指標化した数値と、100円の収益を上げるための費用を示す営業係数をもとに全155路線を分類。営業係数が400以上で、公共性も低い45路線を廃止検討対象とした。

廃止検討対象は高齢者の通院需要などを見込み00年から始めた100円バス「赤バス」の28路線

大阪市営バスの収支見込み(億円)

	2009年度 (見込み)	行動計画時 達成	
収 益	運輸収益	138	139
	一般会計補助金	24	13
	地下鉄事業からの繰入金	0	19
	その他	5	4
	計	167	175
費 用	人件費	117	63
	減価償却費	23	17
	委託費	53	55
	支払利息	5	4
	その他	42	33
計	240	172	
経常損益	▲73	3	

(注) ▲は赤字

も含む。来年度に車両の買い替え時期を迎えるが、利用が低迷しており新規投資に見合わない判断した。

同市交通局は行動計画に沿ったリストラの実施に加え、黒字路線での増収なども想定。175億円の収益に対し、費用を172億に抑えて3億円の経常黒字が出せると見込む。

25年以上の赤字による600億円超の累積欠損金の削減はメドが立っていない。市議会からは民営化を求める声もあり、行動計画を巡る議論は曲折が予想される。

大阪市赤バス廃止案

読売「高齢者の足」反発も

乗客平均4人 赤字19億円見込み

赤字続きのバス事業の改革に取り組む大阪市交通局は10日、全155路線のうち、採算性が低い45路線の廃止案を発表した。2002年から運行する小型コミュニティバス「赤バス」は全28路線が廃止に含まれる。赤バスは、小型バスの特性を生かし、公共施設や病院などを巡る細かいルート設定で「高齢者の足」ともなっているだけに、全面撤退には市民や議会の反発も予想される。



廃止案が打ち出された赤バス。撤退には利用者の反発も予想される（10日、大阪市天王寺区で）—大西健次撮影

んなアホな。無駄な事業はほかにたくさんあるはず」と口調を強める。入院中の妻を見舞うために利用する無職杉本祐司さん(80)も「財政難はわかるが、赤バスは高齢者にとって命綱だ」と訴えた。

一方で、1000円の収益を上げるのに812円かかる路線もあり、今年度の赤バス事業の赤字見込み額は19億5000万円に上ることから、「必要性を考え直す時」との意見も。山内弘隆・一橋大教授(交通経済学)は「コミュニティバスも淘汰の時代に入った。便利だが、赤字が続けば整理対象となるのは仕方ない。乗客の要望に応じて走るデマンド交通の導入などを検討してはどうか」と提言する。国土交通省によると、コミュニティバスは全国1087市町村(07年度末)が運行しているが、利用者減などで横浜市や大阪府八尾市が中止するなど、撤退の動きも出ている。

赤バスはノンステップ型の25人乗りで、運賃は一律100円と割安。市民の要望に基づいてルート設定しているが、既存のバス路線との重複も多く、1便あたりの平均乗客数(今年度見込み)は4人と低迷する。市のバス事業では今年度、73億円の赤字が生じ、累積赤字は606億円に膨らむ見通し。経営改善を迫られる交通局は「赤バスでしか移動できない乗客は、全体の15%程度で、廃止の影響は限定的」と判断した。今回の改革案で76億円の改善効果を見込んでおり、

市民アンケートなどを実施した上で議会や有識者の意見を踏まえ、今年度中に最終方針を決定、早ければ10年度末に実施するという。

ただ、利用者は強く存続を求める。この日、大阪市天王寺区のJR天王寺駅前で停留所に並んでいた女性(80)は廃止案を聞くと、「そ